

中村元 慈しみの心

1 総合

山陰中央新報

中村元 慈しみの心 No.246

一つことを聞きていつも珍しく初め
たるように信のうえにはあるべきな
り。
(蓮如)

△解説▽「一つこと」とは「同じこ
と」の意味である。信仰とは理論で
はない。宗教的生き方であり、教え
は一度聞いただけで身につくもので
はない。同じ教えであっても初めて
聞いたように新鮮に受け止めよ、と
いうのである。信仰ばかりではない。
人生を生きるにも同じことが言え
る。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.7.10 中村元記念館協力

2016年(平成28年)7月10日(日曜日)

中村元 慈しみの心 No.245

戦争は掠め取るものは掠め取られ、
殺すものは殺され、怨むものは怨まれ
るものだから。
(ブッダ)

△解説▽釈尊は世俗を出た出家者
だが、世間の人々に人間としてのあ
るべき行為を種々に説いている。時
には政治に直結する指導もあり、特
に戦争反対の姿勢を強く示してい
る。この一文もある国王に戦争の非
なる理由を説いているものである。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.7.9 中村元記念館協力

2016年(平成28年)7月9日(土曜日)

中村元 慈しみの心 No.248

諸聖をも慕わず、己靈をも重んぜず。
(石頭)

△解説▽少し専門的な話になる
が、学生に「宗学」、往生・成仏の
道を教えるのに、まず、伝統的な教
学(ここでは「諸聖」にあたる)を
学ばせる。それだけでは知識に過ぎ
ないから、自分でどう受け止めるか
という主体的理解(ここでいう「己靈」
を求めさせる。両者は相互に助けあ
う関係にあるが、現実には偏る場合
が多い。理論と実践とのバランスを
教えるのは難しい。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.7.12 中村元記念館協力

2016年(平成28年)7月12日(火曜日)

中村元 慈しみの心 No.247

未だ得ざるを得たりと謙い、未だ証
せざるを証せりと謂えり。
(『法華経』)

△解説▽何かをマスターした、完
全に分かった、というが、果たして
本物を本当に得たのだろうか？ い
い加減のところに分かったつもりで
いるのではないか。こうした謙虚な
反省は常に必要であろう。釈尊は高
慢な5千人の弟子が自分は悟ったと
思い、法座を去って行くのを、憐れ
みつつ、止めなかったという。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.7.11 中村元記念館協力

2016年(平成28年)7月11日(月曜日)

中村元 慈しみの心

1 総合

山陰中央新報

中村元 慈しみの心

No.250

人々は信念にしたがい、清らかな心で布施する。だから、与えられた飲食物に満足しない者は、昼も夜も心が安まらない。
(ブツダ)

△解説▽「与える」という行為は「哀れだからくれてやる」という一方通行のものではない。自と他が互いに助けあう慈悲の心に支えられる両面通行の行為である。それだけに与えられた物に文句を言うべきではない。ブツダの説く布施の正しい与え方であり、受け方である。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.7.14 中村元記念館協力

2016年(平成28年)7月14日(木曜日)

中村元 慈しみの心

No.249

速きを欲すれば即ち達せず、また緩やかなれば急ぐことを縛めるべし。
(「達磨禪師論」)

△解説▽本書は6世紀に中国に禅を導入した達磨大師について語っている。急げば事を仕損じると言い、これは急がば回れの禅宗版である。同時に、急ぐ気持ちを抑えてゆっくり行け、とは一つ一つのことを丁寧にせよ、ということでもある。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.7.13 中村元記念館協力

2016年(平成28年)7月13日(水曜日)

中村元 慈しみの心

No.252

吾等は何ものも持っていないが、楽しく生きていこう。ミティラー市が焼けても、吾等には焼けるべき何物もない。
(ブツダ)

△解説▽ミティラー市が焼けても、とは「東京が焼けても」と入れ替えてもいい。人生を真に支えるのは物ではなくて、焼けることのない強い心である。すなわち真実、「法」に随って生きていく自覚と自信と喜びを持ってという。過激な言葉だが、ブツダは自らに納得して生きる人生をこういう言い方で説いている。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.7.16 中村元記念館協力

2016年(平成28年)7月16日(土曜日)

中村元 慈しみの心

No.251

若し全肯すれば、即ち先師に辜負す。
(洞山良价)

△解説▽唐の禅僧洞山は師匠の雲巖を「半分は認め、半分は認めない」という。師匠の悟り、教えをすっかり受け継いだとしても、それをどう生かすか、どう説くかは同じではない。教えられたことの全面肯定はかえって師匠の心に背く(辜負)。道元も「師の説をそのまま自分の意見(口見)とするな」と注意している。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.7.15 中村元記念館協力

2016年(平成28年)7月15日(金曜日)